

県きこL研ニュース

岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究会事務局（盛岡市立桜城小学校内）

〒020-0022 盛岡市大通 3-8-1

電話／FAX 019-624-0457 e-mail:jimukyoku@iwate-nangen.jp http://www.iwate.nangen.jp

第63回 岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究大会 開催報告

令和5年1月10日（火）に、いわて県民情報センター（アイーナ）で第63回岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究大会が開催されました。事後、長年本研究会にご尽力いただいた先生方の表彰が行われました。その後、分科会毎に研究発表が行われました。



第1分科会	校長班	助言者	岩手県教育委員会事務局 学校教育室 特別支援教育課長	近藤 健一 先生
		発表者	岩手町立沼宮内小学校 校長	小野寺 俊哉 先生

【発表主題】 めざす子ども像を明らかにした、自立を促す指導・支援の在り方
～誰一人取り残さない学校～

【キーワード】 二次的障がいの防止 義務教育修了後を見通した支援 定期的なアセスメント

<助言>

- ・平成29年3月に文部科学省が出された「発達障がいを含む障がいのある幼児・児童・生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン」、略して「ガイドライン」の校長の役割を再確認し、学校経営を振り返って欲しい。
- ・その子にあった支援をしていくために、適切に見立て、そのことを共有する場をつくることが重要である。
- ・専門性の向上や人材育成のための校内研修では、センターの研修講座はもちろんのこと、地域の中核コーディネーターやエリアコーディネーターの活用が有効である。



- ・中学校の特別支援学級卒業生の高校進学率が63%である。高校における特別支援教育の推進をどうしていくかが今後の課題である。
- ・現在、岩手特別支援教育推進プランの素案を作成している。今後の施策に対する意見を寄せていただきたい。

第2分科会	難聴班	助言者	岩手県立盛岡聴覚支援学校	教諭	一条 遥 先生
		発表者	滝沢市立滝沢東小学校	教諭	千葉 昌子 先生

【発表主題】 めざす子ども像を明らかにした、自立を促す指導・支援の在り方
～自己の課題に気づき、主体的に改善を図ることを目指して～

【キーワード】 個別の指導計画の活用 自立活動の充実 連携



<助言>

・教育支援計画、個別の指導計画の作成・活用システムを構築するために、担当以外の教員の協力が必要である。



- ・教科横断的視点で継続的に指導・支援をしていくことが必要である。
- ・「セルフアドボカシー」を子ども自身が身に付けていくとよい。
- ・自立活動指導資料(教育センターHP からダウンロード可)を活用してほしい。
- ・同じ障がいをもつ大人、や子どもとの交流の場を通して、障がい認識を深めていけるとよい。

第3分科会	LD班	助言者	岩手県立総合教育センター 研修指導主事 藤井未央先生		
		発表者	花巻市立若葉小学校 二戸市立福岡中学校	教諭	柏田史隆先生 西山泰子先生

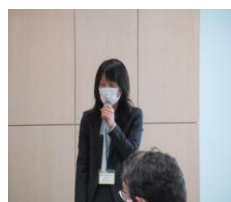
【発表主題】 めざす子ども像を明らかにした、自立を促す指導・支援の在り方
～活動の機会を広げる工夫～

【キーワード】 小学校部会 いごこちのよい環境(人・場所・もの・ことば)
中学校部会 自立活動の指導の工夫 教材・教具の工夫



<助言>

- ・通常学級の教室で、通常学級担任とのTT指導の実施は問題ない。担任と担当者がお互いに児童の様子を見るよい機会になる。
- ・保護者との接し方は、個別の指導計画に基づいて進めていくとよい。
- ・中学校への引継ぎは、個別の指導計画に合理的配慮について記載すること。本人が困った時にどうすればよいか分かっていることが大事。本人が自立活動で何を学んだのかをはっきり言えるようにすること。
- ・中学校では、自己理解と自立がテーマ。自分で解決方法を考え、必要に応じて助けを求められること。



- ・通級指導教室での指導は、教科の点数をあげることではない。教科の補充指導ではない。自分に合った学習の仕方を学ぶところ。点数ではなく、その子の学びの過程を評価すること。
- ・担当者は、「自立活動」の内容を理解して指導すること。
- ・通級に行けば、わかるという環境が、子どもの安心につながっている。

第4分科会	両磐 上閉伊・気仙	助言者	紫波町立日詰小学校 校長 森和佳子先生		
		発表者	一関市立室根小学校	石川幸子先生	

<両磐地区> 発表者 一関市立室根小学校 石川幸子先生

【発表主題】 めざす子ども像を明らかにした、自立を促す指導・支援の在り方
～子どもの実態を見立てる言語検査の工夫～

【キーワード】 「たのしいすごろく」を活用した子どもの実態の見立てと早期支援



<上閉伊・気仙地区> 発表者 住田町立世田米小学校 教諭 原野悦子先生

【発表主題】 めざす子ども像を明らかにした、自立を促す指導・支援の在り方
「どの子もいきいきと活動できる通級指導教室をめざして」
～上閉伊・気仙地区実態調査 最終報告～

【キーワード】 幼小連携 言語検査 実態把握 LD等通級受け入れ



<助言>

- ・「見取る」ではなく、「見立てる」ということばを使ってほしい。
- ・ことばのテスト絵本のささやき声で見せる絵を状況説明させる絵にすると発達をみることができる。
- ・マニュアルを作成し、できないと何が困るのかを明記し、保護者に伝える。
- ・ことばの教室でやること、できることを保護者に示し、理解を得られるようにしていく。
- ・子どもの困り感を聞いてみるとよい。
- ・就学指導委員会での判断基準をみんなで情報共有し、県に働きかけていくとよい。
- ・合理的配慮がどの子にもできるように、現存のことばの教室を活用していくとよい。
- ・教科指導ではないということに留意すること。自分にはどんな困難があるか、どうすれば乗り越えられるか、それを主張・要求できる力をつけるのが通級指導教室の役割である。



第5分科会	花北 宮古	助言者 陸前高田市立気仙小学校	教諭 佐藤 司 先生
-------	----------	-----------------	------------

<花北地区> 発表者 北上市立黒沢尻西小学校 教諭 大内 恵理子 先生

【発表主題】 めざす子ども像を明らかにした、自立を促す指導・支援の在り方
～活動の機会を広げる工夫～

【キーワード】 個別の指導計画 学習意欲を促す評価 学習活動の工夫



<宮古地区> 発表者 宮古市立千徳小学校 教諭 高橋 幸子 先生

【発表主題】 めざす子ども像を明らかにした、自立を促す指導・支援の在り方
～学習意欲を高める指導の工夫～

【キーワード】 指導の改善 教材・教具 目標の共有



<助言>

- ・個別の指導計画は、児童・保護者・担任から情報を収集して作成すること。フェースシートの作成は大事。
- ・児童の様子や主訴から、それに見合う指導をしていくこと。
- ・通級のサービスについて、県・市町村で明確に伝えること。
- ・追加資料が分かりやすい。



- ・ことば以外の困難をもった児童が増加している。自立活動の6区分に当てはめにくい。
- ・ことば以外を指導することで、ことばが改善していくこともある。
- ・フェースシートをしっかりと作成し、児童の課題が何かをとらえ、担任・保護者の願いも入れて、どうゴールを設定するかが大事。
- ・様々な心理検査等を実施し、見極めて、通級なのか特別支援学級なのかを決めていくとよい。

第6分科会	盛岡 胆江	助言者 八幡平市立大更小学校	指導教諭 牟岐 茂里雄 先生
-------	----------	----------------	----------------

<盛岡地区> 発表者 紫波町立日詰小学校 教諭 帷子 豊美 先生

【発表主題】 めざす子ども像を明らかにした、自立を促す指導・支援の在り方
～活動の機会を広げる工夫～

【キーワード】 振り返りの視点 自己評価 アフターフォロー 読み方の工夫 連携



<胆江地区> 発表者 金ヶ崎町立金ヶ崎小学校 教諭 福田 美穂子 先生

【発表主題】 めざす子ども像を明らかにした、自立を促す指導・支援の在り方
～活動の機会を広げる工夫～

【キーワード】 学習の振り返り 自己評価カード 通級での学びを生かす活動場面

<助言>

- ・子どもの課題を様々なところからアプローチしており、この実践から共有することの大切さを学ぶことができた。
- ・「活動の機会を広げる」とは、社会に出た時に力を発揮できるように伸ばしていくことである。どんなところで困り感が出るかを見極め、学習計画を立てて、段階を踏んで指導を行っていたところが素晴らしい。
- ・保護者と担任とただやり取りするのではなく、ニーズを把握しめざす子ども像を共有している。連絡帳が子ども中心のコメントになっているところが良い。評価されることが子どもにとって何を頑張ればよいか、次に頑張ることが明確になり意欲となり、気づきにもなる。そして、自己肯定感の向上へとつながっていく。
- ・個別の指導計画を立てる時は、子どもをいかに見立てるか、どのような指導をしていくのが大事。スモールステップでたくさんの目で子どもを伸ばしていけるとよい。
- ・タブレットの使用については、今後も市町村ごとに工夫をしていくとよい。
- ・振り返りや評価カードの工夫がとてもよい。地区内で共有されているところも素晴らしい。



第7分科会	岩手県 手北	助言者 花巻市立花巻小学校 教諭 吉池 稚重子 先生
--------------	-------------------	-----------------------------------

<岩手地区> 発表者 岩手町立沼宮内小学校 教諭 白野 多恵 先生

【発表主題】 めざす子ども像を明らかにした、自立を促す指導・支援の在り方
～5年間の研究のまとめと成果～

【キーワード】 教材教具 学習形態 連携

<県北地区> 発表者 軽米町立軽米小学校 教諭 高橋 寿生 先生

【発表主題】 めざす子ども像を明らかにした、自立を促す指導・支援の在り方
～活動の機会を広げる工夫～

【キーワード】 吃音を気にしなくなるまでの2年間の記録

<助言>

○緘黙の指導・支援の考え方

- ・人、場所、活動を少しずつステップアップさせていく。
- ・「引継ぎシート」を活かす。
- ・安心できる場所の確保を。

○吃音について

- ・X軸 吃音について学年相応に理解を設ける。
- ・Y軸 周囲へのアプローチ 保護者がどのようにとらえているか。
- ・Z軸 安心して悩みを相談できる場所の確保。
- ・指導の終了は、その子の自立をどうとらえるかを考えるとよい。
- ・「主体的に改善・克服」とは、必要な知識・理解を身に付けることである。自分の障がいへの知識。
- ・自己肯定感は、保護者にも必要。
- ・どうすればよいか分かること、この人に話せば安心するような存在になれるといい。



幼児班 実践交流—指導上の疑問点・課題について—

<話題になったこと>

- ・教育相談の段階での進め方について
- ・舌運動訓練の効果的なやり方について
- ・マスクをして生活をしていることが発音に影響しているかもしれない。
- ・発達に課題のある子どもが多い。



講演 演題「ことばの力が育ち、主体性を高める授業と環境づくり」

講師 東北福祉大学 教育学部 教育学科 教授 大西 孝志 氏

最近の教育情勢やことばの力を育てるための教師や親の役割等について、詳しく教えてくださいました。

<内容>

○最近のメディア

テレビドラマでも障がい者やLGBTなどを取りが上げた作品が多くなり、関心が向けられるようになってきたこと。

○カリキュラム・マネジメントについて

- ・年齢相応の生活経験・常識…人として知っておくべきことを適切な時期に大人が教える役割を担う。
- ・「犬棒かるた」で言葉を学ぶ。
- ・言語概念の形成…子どもの経験に言葉でラベル付けをする。
- ・書記日本語の習得。(特に難聴・聴覚障害)
- ・目的をもった生活を送らせること。

○特別支援教育の今

- ・通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒の割合は8.8%。
- ・生徒指導提要が改訂され、性的マイノリティーの児童生徒への支援の仕方が掲載される。
- ・障がいをもつ児童生徒への合理的配慮の提供は、個別の支援計画、分かる授業につながる。

○生きる力の形成

予測困難な時代であるからこそ、いろいろな問題を解決できる「生きる力」が必要である。そのためには、コミュニケーション能力・読み・書き能力が大切になってくる。

○各教科の目標・内容を踏まえた授業

- ・教材研究の大切さ
- ・発問の工夫
- ・年齢相応のカリキュラム・マネジメント



～大西先生、ありがとうございました。～



(地区研究会の紹介)

こんにちは

盛岡地区研究会です

私たち盛岡地区研は、盛岡市・矢巾町・紫波町にある30教室（幼児4言語13難聴8LD5）で構成されています。

今年度も4回の研修会を実施しました。研修会の様子を紹介します。

第1回 6月3日（金）

○昨年度活動報告、今年度活動計画 ○LD 班の実践紹介

第2回 9月13日（火）

○「通級による指導への期待」盛岡市立本宮小学校副校長 五安城正敏先生

国や県の動向を踏まえた上で今後の通級指導の在り方についてお話しいただきました。

「制度や仕組みは、現場のニーズと現場での実践から生まれる」

そのためには「実態把握」「通級による指導体制のイメージ化」「先駆的な実践の蓄積」「方向性の確認」「新たな制度や仕組み」という流れが必要。

第3回 11月28日（月）

○「学校卒業後の困難さと支援」

千年苑在宅部門所長兼苑長補佐(前盛岡広域圏

障害者地域生活支援センター「My 夢」所長)

工藤宏行 氏

「ここ10年で障害者の就業支援の様相が大きく変わっている。
盛岡は支援の資源が豊富。連携していきましょう。」

【感想より】通級担当に関わりのある内容でとても勉強になりました。13人の確保は大変だと思いますが行政と協力して維持していきたいと感じました。

○言語班盛岡地区中間発表会

紫波町立日詰小学校

帷子 豊美



第4回 1月31日(火)

○幼児班からの教材の紹介と難聴班からの実践紹介

○今年度の成果と課題、次年度の見通し

